

「男鹿市における高齢化による生活環境の変化と健康に関わる要因に関する研究」

共同研究チーム

日本赤十字秋田看護大学 柳生文宏（公衆衛生学）◎プロジェクト代表者

日本赤十字秋田看護大学 夏原和美（人類生態学）

秋田大学 田所聖志（文化人類学）

研究期間：2016年9月～2017年2月

研究の要約：

本研究は、少子高齢化による人口減少に起因する地域社会の買い物環境ならびに交通の利便性の変化によって、(1) 高齢者の生活環境がどのように変わったのか、(2) 食生活や身体活動がどのように変わったのかを明らかにし、(3) これらのあいだに見られる関連を検証することが目的であった。

研究初年度である2016年度は、上記(1)(2)に関する現状の把握を研究の主な目的とした。そのため、別の研究資金を得て行っている男鹿市内の7地域のアンケート調査と平行し、本研究では、男鹿市A地区の一集落を対象としたインタビュー調査を実施した。その結果、男鹿市A地区の調査対象集落では老人会や自治会組織を主とする既存の社会組織が、高齢化や人口減少による変化によっても依然として活発な活動を続けていることが分かった。同時に、車での移動に依存した買い物生活を形成していることも分かった。

そこで、車依存の生活の特徴を明らかにするため、近隣にガソリンスタンドがない青森県B村の集落を比較の対象として選定し、インタビュー調査を実施した。その結果、住民の方々は、日用品などの購入には隣接自治体内のスーパーやガソリンスタンドを利用するほか、移動販売サービスを利用して対処していることが分かった。

以上の調査研究により、現段階では、男鹿市A地区および青森県B村においても、既存の社会組織および買い物環境を活用しつつそれらの環境資源を改変させることによる現状対処を、住民の方々が編み出しているという手がかりを得た。今後は、聞き取り調査をさらに続けてデータをさらに蓄積するとともに、上記(3)の研究目的の遂行を目指して、生活環境の変化と買い物環境・交通の利便性の変化と健康とのあいだの関連性についての調査研究に取りかかりたい。

## 2016 年度の調査研究の実施状況

### ・男鹿市A地区での聞き取り調査

男鹿市A地区において 2 回聞き取り調査と年末の伝統行事での参与観察を実施し、自治会活動、老人会活動、青年会活動に関する聞き取り調査を行った。この現地調査では学生 1 名が参加した。この調査の機会を利用して、社会調査法に関する学生への実習指導も行った。

### ・弘前大学の羽淵一代先生（社会学）との情報交換

青森県B村での聞き取り調査の計画立案のため、B村での調査研究ならびに学生実習を行ってきた羽淵先生を訪問し、調査研究に関する情報交換を行った。

### ・青森県B村での聞き取り調査

青森県B村において 1 回聞き取り調査を実施し、調査地域の概況、買い物環境、交通の利便性に関する聞き取り調査を実施した。この現地調査では学生 1 名が参加した。この調査の機会を利用して、社会調査法に関する学生への実習指導も行った。

## 2016 年度の調査研究の報告

これまでの上記研究の一部として、「高齢者集落における社会的紐帯と健康状態の関連への文化人類学からのアプローチ：秋田県男鹿市 A 地区 B 集落での予備調査から」というタイトルの論考を、2016 年度日本赤十字秋田看護大学紀要に掲載予定である。当該論考の掲載予定原稿を本報告書の一部として添付した。

## 2017 年度以降の調査研究・方針と方向性、継続について

### （1）男鹿市A地区における調査研究の継続

男鹿市A地区における自治会、老人会、青年会といった既存の社会組織による村落運営活動の実態に関する聞き取り調査および参与観察を継続して行う。本年度は、A地区の方々とのラポール構築にも力を注いだ。今後もさらなるデータ収集に励みたい。

### （2）青森県B村における調査研究の継続

男鹿市A地区の比較対象である青森県B村においても調査研究を継続して行う。B村の概況把握を目的とした聞き取り調査を継続して行いつつ、自治会、老人会、青年会、漁業協同組合といった既存の社会組織の活動、食生活や燃料調達に関する買い物

環境に関する聞き取り調査を継続する。

### (3) 研究枠組みの発展と比較対象地での聞き取り調査計画

これまでの研究において、高齢者集落における買い物環境の変化では車依存の生活構築が重要な要素となっているという手がかりを得た。

高齢者集落のある多くの地域社会では、人口減少による地域の購買力低下によって、車生活にとって重要な要素であるガソリンスタンドも減少傾向にある。そのため資源エネルギー庁では、近隣 15km 圏内にガソリンスタンドがない集落を「SS 過疎地」と定義して対策を進めている。本年度、男鹿市の比較対象として現地調査を実施した青森県B村もそのひとつである。

今後、本研究では、ガソリンスタンドが近隣にないという特徴が高齢者集落での生活構築のあり方にどのように影響しているのかという点も視野に入れた調査研究の枠組みの構築も検討したい。今後、秋田県内外の SS 過疎地も比較対象とした現地調査の実施も検討する。

\*なお、今年度に進めてきた方向性とこれまでの成果を踏まえ、来年度も調査研究を継続させる。さらには、学生を複数名調査員として現地調査に参加させて社会調査法に関する指導も行う予定である。これらの活動を通じ、本研究を、調査研究と教育を両立させたプロジェクトとして発展させる予定である。